

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

# えくてびあん

〈EKUTEBIAN VOL.16 NOVEMBER 1997 EKUTEBIAN〉

11



まいあーと ■ エッグアート 「宇宙の神秘」 by 井上康子

キク科

カワラノギク

# カワラノギク

撮影：宮城六郎 (A) 青木和夫 (B)

11月に入ると多摩川のカワラノギクの残り花に、早朝霜が一面に降りる朝がある。

やがて川霧の中から昇ってきた朝日が霜に当たり始めると解けて水滴になる。この時がいちばん華やかであたりは水滴がきらきらと宝石のように光輝く。そして水滴は僅かの風に落ちたり、太陽の熱で蒸発して次々と音もなく消えていく。

日がでてから解けるまでの時間は長い、解け始めるとそれこそあつという間のできごとで、ぐずぐずしていると写し損になってしまう。







## この温もりを...

### 井上康子のエッグアートの世界

たかが卵の殻とあなどっては、いけない。ひとが技術と愛情をそそげば、ここまでアートの世界が展開される。

井上康子さん(若葉町)の得意技は、あの薄い殻に「彫刻」をほどこすにある。

歯医者さんでお目にかかる電動式のヤスリのような機械で丁寧に彫りあげてゆく。

オーストリッチ、グース、うずら、エミュー、レアエッグなどその素材は幅ひろい。

卵の殻を握っていると、手の温もりが伝わって、まるで「生きているよう」だという。

作者が集中できない時は、卵がそれを察知して壊れてしまうというからデリケートこの上ない。

いまや、井上さんのアートは海を越えてアメリカでも評価が高まりつつある。

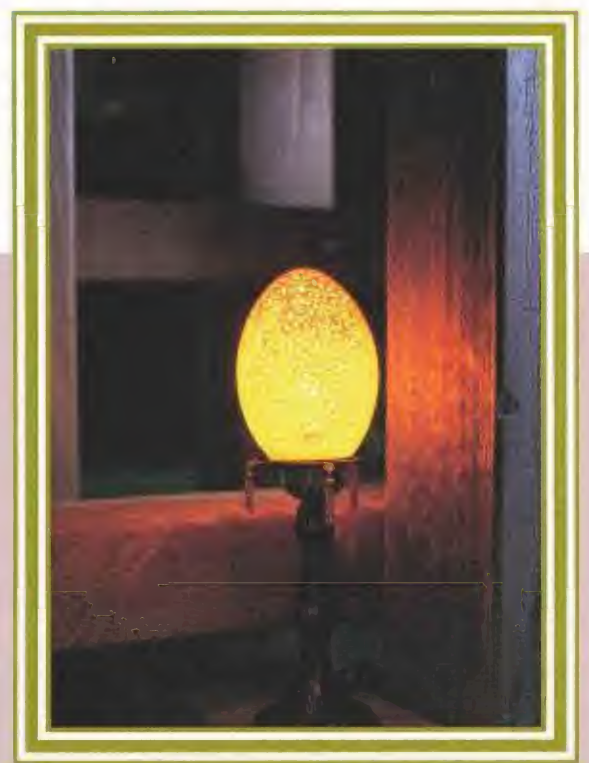
サウザン・カリフォルニア・エッグアーティスト会員。



◆ Pureness ◆



◆ 幻想の白薔薇 ◆  
(ホワイトローズ)



◆ Fascination ◆





ども、お互い、がんばっていきま  
しょう。



# 私の立川原風景

## 第四回

鈴木克吉（柴崎町）



◆ 多摩川暮色 ◆

多摩川の近くで生まれ育ち、昭和三十年代に少年期を過ごした。私は「清流」多摩川を体感した、最後の世代かもしれない。その後、カジカ・イモリ・ホタルが姿を消し、蛇籠（じやかご）や寄せ網で漁をする人、水しぶきに奇声をあげる子供たちもいつか見かけなくなった。

現在、立川付近の多摩川は「清流」という言葉が過去のものになってしまった。もう一度水遊びで冷たく疲れた体を、河原の石で温めてみたい。

（フォトグラファー）